

2017 年 1 月 20 日 第 524 号 (隔月発行)

アジアの友

The Asia-no Tomo

12-1

DECEMBER-JANUARY

2016-2017

新春のご挨拶 ABK 理事長 小木曾友
ABK 山梨・富士研修旅行実施報告
奨学団体に聞く (公財) 高山国際教育財団





2016 年 焼肉忘年会を開催

2016年12月15日（木）焼肉忘年会を開催しました。当日はおおよそ120名が参加し、思う存分大好きな焼肉を頬張りました。また恒例の景品抽選会ではたくさんの学生に賞品が当たりました。



餅つき 2016年12月27日（火）

年末のABK大掃除のあと、恒例の餅つきを開催しました。今回もきな粉や黒ごまなどの甘いお餅が大人気でした。



やまぶき寮防災訓練

2017年1月12日（木）、ABKやまぶき寮の学生に対する防災訓練を行いました。

アジアの友

2016年12月・2017年1月号 第524号

目次

	ご挨拶
2	新春のご挨拶 (公財) アジア学生文化協会 理事長 小木曾友
	ご報告
4	ABK 山梨・富士研修旅行実施報告
8	参加者感想文
14	討論会より
18	アンケートまとめ
	奨学団体に聞く
24	公益財団法人 高山国際教育財団
	私の意見私の体験
33	「日本留学で変わった自分」 リー テーチスルン (カンボジア)
	連載コラム
36	泰日工業大学 奮闘記 (第21回)
	「学生実態調査」 池田隆
39	知友会通信
40	MEMBERS

<表紙> アンコールワット (カンボジア シェ
ムリアップ) で夜明けを待つ観光客
gumbao/Shutterstock, Inc.

新春のご挨拶

公益財団法人アジア学生文化協会

理事長 小木曾 友



謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

本年（2017年）は、当協会の創立60周年（1957年9月18日設立）に当たります。

2017年1月20日、アメリカの新大統領に「米国第一主義」を掲げるドナルド・トランプ氏が就任しました。アメリカは、従来原則として掲げてきた国際協調、民主主義、自由、法の支配といった普遍的な価値観を否定し、実利のための保護主義や移民排斥などアメリカを中心とする新しい国際秩序の形成に大きく舵を切るのではないか、と予想（懸念）されています。

フランスの思想家アレクシ・ド・トクビル（1805－1859）がその著書『アメリカのデモクラシー』のなかで次のように述べていることを噛みしめる必要があります。（『時代を読む トランプの民主主義』宇野重規、東京新聞2017年1月22日）。

「デモクラシーとは不完全なものであり、しばしば大きな問題を起こすが、それでも私たちはデモクラシーとともに生きていかねばならない」。トランプ氏の当選も確かにデモクラシーの力によるものであるといえる。しかし、デモクラシーの敵は自らの内にある。不安に駆られた人々の力が、社会の少数者を迫害し、自由や法の支配を脅かす例も少なくない。これに対しトクビ

ルは、「デモクラシーの困難を克服する力もデモクラシーの内にあり、草の根レベルの自治や人々のつながりが、長期的にはデモクラシーを健全なものにする」と説き続けた。

さて、穂積五一先生の主宰する新星学寮を基本財産として、1957年に（財）アジア学生文化協会が設立され、1960年にアジア文化会館（ABK）が建設されました。このABKは、日本の大学に通うアジア諸国の留学生、日本人学生、及び（財）海外技術者研修協会（穂積初代理事長）の受け入れる技術研修生も共に生活し互いに学び合い、「すべての個人、すべての民族の自主と平等」（穂積精神1）の理念の下に、寮生同士が信頼と友情を育み、人間関係の輪をアジアに広げ、戦争のないアジアと世界平和の実現を目指すという高遠な理想を持って設立されたものです。

アジア学生文化協会は本年設立60周年を迎えます。2013年に設立された兄弟団体である学校法人ABK学館日本語学校はじめ、アジア文化会館のOB・OG（同窓生）たちが帰国後、日本留学の成果を活かして生み出したタイのTPA（泰日経済技術振興協会）、TNI（泰日工業大学）、ベトナムのドンズー日本語学校、インドのタミールナドゥ同窓会センター、香港の百賢教育基金、百賢アジア研究院（日本法人・日本百賢アジア研究院）等、そして全世界の各界で活躍する優に1万人を超えるABKの同窓生たちが、「一灯やがて万灯となるごとく」（穂積精神2）人間関係の輪を広げ、社会の向上と人類の平和のために日夜努力を続けています。

協会の創立60周年に当たる本年は、秋に記念シンポジウム「アジアの人材育成と日本留学の課題」（仮題）の開催、老朽化した新星学寮の建て替え（現在関係者の間で検討中）、また、同じく老朽化の進むアジア文化会館本体の建て替えについても中・長期計画の作成に着手する予定です。

新しい年の始めにあたり、内外関係者の皆様の一層のご支援・ご鞭撻を衷心よりお願い申し上げます。

2016年度

ABK 山梨・富士研修旅行実施報告

本年も公益財団法人東芝国際交流財団から助成金を受け、当財団が運営する学生寮の大学生、大学院生、専門学校生等を対象とした、山梨・富士方面研修旅行が実現しました。研修旅行を通じ、学寮で暮らす各国からの留学生、日本人学生が、日常から離れ共に学び、考え、感じ、楽しみながら相互交流をはかり、相互理解を深めることができました。

アジア文化会館（ABK）は、（財）アジア学生文化協会初代理事長穂積五一氏により1960年、東京都文京区本駒込二丁目に創設され、日本人学生並びにアジアからの青年学生を中心とした共同生活を実現し、自治的活動を通じた人間形成と友情醸成の場として運営してきました。そして、ここで培われた友情と信頼をベースに、アジアを中心とした各国に貴重な人的ネットワークが構築されてきました。

しかし、時代と共にABKを取り巻く状況も変化し、現在は財団運営の日本語学校、新設の日本語学校の学生が学寮の大多数を占めており、学寮の数も合計9つの寮になり、寮生も300名を超える数に上っています。また一方、大学、大学院、専門学校等に通う留学生は、勉学に、研究に、バイトにと以前に増して忙しい時間を過ごしています。その上、インターネット、SNS等の発達で、寮に戻っても部屋で過ごす時間が増え、同じフロアに暮らしていても顔を合わす時間が減り、内部連絡もLINEなどで

取る時代です。現在、年8回の定例会議（ハナ金会）では、フロア生*と職員で食事を共にし、またABK主催の年間行事はフロア生の運営で実施していますが、対話の時間は年々少なくなる一方です。

こうした寮生同士、寮生と職員の交流を、忙しい日常から離れて深める場として、昨年久々に実施した研修旅行では、「日本での見聞を広め、学び、かつ楽しみながら交流できた」、「さまざまな国からの留学生と議論でき、刺激を受けた」、「新しい友達ができた」等々、研修旅行に期待した以上の成果が返ってきました。

そこで、幸い今年も助成金を受けることができましたので、留学生の負担を最小限に抑え、研修旅行を実施することができました。

今年も、旅行先と実施時期についてはハナ金会で図り、山梨・富士方面に11月に行くことに決め、フロア生の実行委員と職員との実行委員会で旅程の詳細は組まれました。（6頁参照）一日目は、移動に時間をと



られ、各訪問先で十分な見学時間が取れず、残念な思いを持たれた人もいたようですが、ホテルに着いて、初めての温泉体験者も一緒に温泉を楽しみ、夕食会で大いに盛り上がり、夜の討論会では率直な意見や議論でお互い刺激を受け、更に2次会での楽しい会話やトランプゲームで一気に距離感が縮まりました。二日目は幸い天候にも恵まれ、富士・青木が原樹海でのトレッキングは、普段運動不足の学生たちが大自然の中、澄んだ空気と自然の木々の香りに癒されながらガイドさんの案内で、富士山の成り立ちや植生について学びながら、スムーズに定刻に目的地に辿り着け、大いに楽しみました。富士山から山梨盆地に下り、留学生にとって珍しい林檎とぶどう狩りを体験し、最後は、最先端鉄道技術のリニア見学セン

ターで、リニアモーターカーの仕組みについて大変わかりやすい説明と実験を見ることができ知的好奇心も満たされ、思い出深い研修旅行になりました。

この研修旅行を通じて深まった友情を礎に、学生寮での活動がより活発になりお互いが更により関係性を構築することを願っています。

最後に、今年も留学生にこのような貴重な機会を与えてくださいました公益財団法人東芝国際交流財団に対し、改めて御礼申し上げます。

(*) フロア生：ABK 学生フロア規約（1983年制定）に則り、学生の自治的共同生活を担っている学生。募集、面接により選考され入寮する。ABKの学生活動の牽引役となっている。

旅 程

第1日目 2016年11月19日(土)

- 8:30 ABK ロビー集合
 9:00 ABK 発
 9:30～10:30 虹の下水道館
 <首都高・中央道> バス内で弁当昼食
 12:30～13:30 サントリー登美の丘ワイナリー
 14:15～15:30 山梨県立美術館
 16:40 レイクホテル西湖着(宿泊)
 散策・温泉入浴
 18:00～19:30 夕食会
 19:45～21:30 討論会
 21:30～ 二次会・自由



第2日目 11月20日(日)

- 7:00～ 朝食
 9:20 ホテル発
 9:30～11:30 西湖野鳥の森公園～西湖コウモリ穴
 <青木が原トレッキング>
 11:40～12:00 鳴沢氷穴
 <中央道>
 13:00～14:30 見晴らし園
 <昼食、林檎・ぶどう狩り>
 15:15～16:30 山梨県立リニア見学センター
 <中央道・首都高>
 19:45 ABK 着



研修旅行実行委員

AVLIUSH BOLOTBYEK (モンゴル)

ZHOU YUAN (中国)

IKEDA TAKEHIRO (日本)

KIM JAE WOOK (韓国)

職員: 布施 知子/水須 善幸/森田 渚



ABK 山梨・富士研修旅行参加者名簿

氏名(英字)	性別	国・地域	係	部屋割	グループ割	
					1日目	2日目
JUMROEN VATTANA	男	タイ	観光ガイド(鳴沢氷穴)	B	1	4
LY TECHSRUN	男	カンボジア	討論会準備係	D	1	4
SAMEH ALI MOHAMED ELTAYBANI	男	エジプト	医療係	E	3	3
IKEDA TAKEHIRO	男	日本	散歩係、写真係	B	4	6
POK SOVANNA	男	カンボジア	討論会準備係	C	5	2
CAO YUAN	男	中国	バス司会(通訳)係	A	6	2
XU XIAN MIN	女	中国	観光ガイド(美術館)	F	2	5
DOVCHINSUREN KHALIUN	女	モンゴル	討論会準備係	F	3	4
JANG MI SUN	女	韓国	バス司会・ゲーム係	H	4	1
LEE YOON JIN	女	韓国	バス司会・ゲーム係	H	5	3
ZHOU YUAN	女	中国	グループリーダー	G	5	4
NGUYEN THI MAI DAN	女	ベトナム	バス司会・ゲーム係	H	6	6
NG KOK LONG	男	マレーシア	観光ガイド(リニア見学センター)	D	1	5
CONDE REIS ALBIN	男	ベルギー	グループリーダー	D	1	6
SUN YU DI	女	中国	グループリーダー	G	2	3
FOO FAN JUN	男	マレーシア	写真係	E	3	5
CHENG PO WEN	男	台湾	グループリーダー	A	2	5
CHOENG HORLEANG	男	カンボジア	散歩係	C	4	3
PENG EAKKOUNG	男	カンボジア	散歩係	B	5	1

OGISO YU	男	日本	観光ガイド(ワイナリー)	E	6	6
FUSE TOMOKO	女	日本	グループリーダー	G	6	2
MIZUSU YOAHUUKI	男	日本	グループリーダー	C	4	2
MORITA NAGISA	女	日本	グループリーダー	F	2	1
TSUKUDA YOSHIKAZU	男	日本	グループリーダー	A	3	1



レイクホテル西湖での夕食会

ABK 山梨・富士研修旅行

参加者感想文

ドブチンスレン・ハリオン（モンゴル）

東京大学大学院修士1年、経済学研究科・
経済専攻

今回、研修旅行には初めて参加したが、とても良い体験になった。毎月の花金会では皆と話す機会があるが、それとは別に普段の皆の違う部分が見られ楽しかった。また、紅葉の季節でもあり、日本の季節の美しさを体感することが出来たのは非常にうれしかった。盛りだくさんの企画があったが、その中でも美術館や散策は個人的にうれしかった。ただ、時間が限られていたため一つの企画の時間が切羽詰まった状態であったのは若干残念である。また、来年の研修旅行にぜひ参加したいと思います。

Foo Fan Jun（マレーシア）

デジタルハリウッド大学3年、デジタルコミュニケーション学部・デジタルコンテンツ専攻

このたび参加できて良かったです。色んなところで減多には体験できないことを知ることができてよかったですが、特に良かったと思ったのは討論会でした。トランプ（編集部注：アメリカ大統領）についての内容以外はかなり盛り上がることもあって、そ

してそれに加え自分自身では思ってもいなかったことを知ることができました。クリエーター志望としてより多くを知らないといけないと改めて実感させられました。

ポッ・ソヴァンナ（カンボジア）

東洋大学大学院修士2年、国際観光学専攻

去年の合宿と比べ、宿泊先の夕食の料理がちょっと味が落ちましたが、でも美味しくいただきました。仲間もいっぱいできまし、大変良かったです。それに、バス内のゲームを実行する委員も積極的で、楽しくバスで過ごせました。大変良かったです。

孫 雨迪（中国）

中央大学・交換留学生、理工学部・生命科学専攻

日本に来て特に留学生には中国人が多いというイメージが強かったが、今回参加していたメンバーでは中国人が結構少なく、あまり合わないカンボジアやエジプトの人とも話し合え、とても貴重な体験ができました。それとあまり練習する機会のない日本語や英語の練習にもなりました。大学生や大学院生の人が多い中、みんな日本語が上手で、憧れの先輩がたくさんいます。これはすごくいい刺激になって、また頑張らなきゃって思いになりました。二次会のトランプもすごく楽しかったです。みんない

いろいろな国から来てるのにトランプで距離が一気に縮まった感じがします。そのおかげで友達も出来て本当に嬉しかったです。よかったら是非また ABK のイベントに参加したいです！



サントリー登美の丘ワイナリー

ジャムレーン・ワッタナ (タイ)

東洋大学 3 年、経済学部国際経済専攻

今年の研修旅行に参加して非常に良かったです。思ったより楽しい旅行でした。いくつかの理由があります。まず、日本語で話す機会が多くなり、特に日本語の上に英語でも話せる機会がたくさんありました。次に、今まで4年間 ABK の寮に住んでいるのに、全く会ってなかった人もいるし、会話も一度もしたことがない人もいました。研修旅行に参加してたくさんの仲間もできました。最後に、ホテルで討論することは、みなさんの意見を聞くことができるし、新たなアイディアも発見しました。

い気がし、残念でした。また、フロア学生の間でも普段の交流が少なく、今回の旅行にも参加できない人がいたのは、残念でした。その二つ点でちょっと残念だったと思います。

人と人：旅行を通して、各国からの留学生と触れ合い、新しい友達ができました。討論会の時、テーマを絞って、少人数で十分な意見と考えの交換ができました。日本語と英語のグループを分け、それは去年より良かったと思います。ゲーム係はいい仕事をしたと思います。ゲームの時は皆さんの珍しい体験を聞き、とても面白かったし、思い出に残る時間でした。バスの中のビンゴゲームとカラオケは、今後の定番ゲームとしてやってもいいかもしれません。二次会后、トランプカードに夢中になって遅くまで遊びました。全身全霊が開放したと感じました。「大富豪」というトランプは細かいルールがたくさんあり、日本文化の代表の一つになれると思います。二次会の時、皆さんといっぱい話しました。他の人の体験

周 媛 (中国)

東京医科歯科大学大学院博士 4 年、齲（う）
蝕制御専攻

今年、忙しい学校生活の中で、2回目のABK研修旅行に参加しました。今回は企画委員として旅行前の企画会議に参加しましたが、ほとんど日本人からの提案で決まりました。自分のやる気とやれる事が少な



見晴らし園での昼食

いろいろな場所に行きました。また、違う背景を持つ留学生たちと話すのは面白いです。その中で、自分は少しずつ何か変わってくるかもしれません。昨日の自分、今日の自分と明日の自分は決して同じではありません。出会った人、感じた自然、経験したことは思い出になり、人生の宝物になります。

や話などを聞くのは楽しかったです。なぜかという、他人が経験したことからの共感、感動、驚きなどがありますから、聞くのは好きです。

人と自然：東京の学校から離れ、自然から新しい気持ちと元気をもらえました。樹海は自殺の名所として有名なことを初めて聞き、そして、自分の目で確認し、足で歩き、手で触りました。そんなに綺麗な場所で静かに亡くなるという気持ちは何だろう、自然に一体になれば、他の人に迷惑を掛けないということかもしれません。泥ではなくて岩の中で、木の根っ子は横に蔓延し、強く生きているのには感心しました。また、森の香りがよく、紅葉も綺麗で、富士山はいつもと違う風景でした。自然は、そうですね、どんな時でもいつも一番綺麗な姿になっています。人間もどんな年でもいつもよい姿にしているべきだと同じように感じました。

自分と自分：日本に来てから、数多くの日本人の方々のお世話になっています。留学のおかげで、たくさんの人々と出会い、

徐賢敏 (中国)

文化学園大学、博士課程 3 年、服飾機能デザイン

今回山梨県立美術館での見学は最も印象に残った。事前に皆さんに紹介するため、美術館の歴史をちょっと調査した。

19世紀のフランス画家ミレーの代表作『種まく人』の購入が山梨県議会で許可され、1977年ニューヨークのパークバーネットオークションにおいて『種まく人』と『夕暮れに羊を連れ帰る羊飼』を落札した。ミレー以外にもクールベ、ターナーなどバルビゾン派画家の作品を収集している。

ミレーの名作はもちろん、意外にモネーの作品も拝見した。美術生の私には大満足であった。

Sameh Ali Eltaybani (エジプト)

東京大学大学院医学系研究科 1 年

As usual, ABK members are highly active,

organized, and thoughtful. The trip to Yamanashi prefecture has portrayed the continuous efforts to orient students to the different aspects of Japanese society. Team work and collaboration between members was the most dominant feature throughout the study tour. Each student had a role and roles were integrated in a whole for the general benefit of the group and maximum pleasure of each individual. My worries about my very poor Japanese language were diminished from the first moment by kind and thoughtful help from all members. I highly appreciate the thoughtful consideration in preparing a special lunch box for me concerning my religious prohibition of eating some food.

As a non-Japanese, I came in contact with many aspects of the Japanese culture. Moreover, it was my first experience to many things such as Japanese museum, hot spring and Ice cave. Beside entertainment and practicing my hobby in taking many pictures in nature, discussion and sharing points of view between members with different backgrounds broadened my mind and enriched my knowledge about other cultures and societies. I believe this study tour was a comprehensive trip that met many educational and social targets. I am sure I will not hesitate to participate in further trips as much as I can.

There is no doubt that there are many things are waiting me to discover.

Nguyen Thi Mai Dan (ベトナム)

東京大学大学院修士 2 年、応用生物化学専攻

I would like to thank ABK for arranging this trip and the Toshiba company for sponsoring the trip. This is a great chance for me to visit many interesting places such as the art museum, the forest, the Maglev exhibition center, which is my favorite place during the trip, so that I can learn more about Japanese culture, nature and technology. Through the trip, I could also have opportunities to make friend with many international students, share and learn from their interesting experience as well as improve the relationship with other ABK residents. It was also fun because I could try



林檎・ぶどう狩り



青木が原トレッキング

the onsen for the first time in my life. I hope that I could join this activity next time.

池田岳弘（日本）

東京大学大学院修士2年、農学生命科学研究科生圏システム学専攻

私が特に楽しいと感じたのは青木ヶ原樹海のハイキングでした。とても天気がよく、富士山も綺麗に見えてとてもラッキーだと感じました。森林の中を歩いていると、よく話す人から普段あまり話さない人たちまで、楽しく話すことが出来ました。同じ寮にいてもなかなか話したことの無い人たちと普段の生活の話をして、その人について知ることが出来ました。また、個人的にリニアの科学館は興味を持ちました。物理の知識が実用化されて、実際に人々の役に立っていることになんとなく嬉しく思いました。また、もっとリニアについて知りたいと思いました。そして一番の思い出は、夜にみ

んなでトランプゲームをすることが出来た事です。深夜2時過ぎまで、トランプをしてとても仲良くなる事が出来ました。今後定期的にこのトランプ大会を寮で開けたら良いなと思います。誰でも参加してほしいので興味があればぜひ一緒にやりましょう。

チョン・ホーリャン（カンボジア）

東海大学3年、情報通信学部情報メディア専攻

今回の研修旅行はとても楽しかったです。博物館を見に行く時は時間が少なかったため、その博物館の周りの紅葉を見に行きたくても行けませんでした。もし時間がもっとあれば、良かったなと思いました。他には旅館の露天風呂はすごく良かったです、夜8時までに入らなければならなかったのはちょっと残念です。旅館の料理も良かったです。最後に、新しい友達ができて何よりも嬉しかったです。来年も、もし可能であればまた参加したいです。

ベン・エーコン（カンボジア）

嘉悦大学3年、会計ファイナンシャル専攻

個人的には虹の下水道管のような見学が様々な勉強になると思います。普段身の周りにあるものを意外と知らない、気づいていないことが多いです。実際に体験できて、

その当たり前のことの後ろにある大変さや驚きを感じることができました。そして、ホテルでの夜の二次会は楽しかったです。色々な人と話したり、トランプをやったりして一番盛り上がった時間だと思います。

り多国籍のフロア学生が参加し、見学の内容も去年より濃かったと思います。バス内ではカラオケやビンゴゲームなどのアトラクションがあり、とても愉快的時間を過ごせたと思います。

リー・テーチスルン（カンボジア）

早稲田大学 3 年、商学部・マーケティング
専攻

リニア見学センターの見学が一番勉強になりました。テレビでしかみたことないものが、自分の目で実験がみれました。自分で実験を体験できて、良かったです。

張 美善（チャンミソン：韓国）

青山学院大学 4 年 経営専攻

山梨の研修旅行に行って沢山の貴重な経験をすることが出来ました。同じ寮にいながら喋る機会がなかった他の学生とも仲良くなれたし、事務室の方々とも交流することが出来て嬉しかったです。紅葉が綺麗な景色を見ながら美味しい物を食べたり、温泉に浸かったりすることで気持ちも体もリフレッシュしたと思います。討論会では色々な意見があって面白かったし、意見を交換することで自分の視野も広くなりとても勉強になりました。このような機会を与えてくれた ABK の方々に心から感謝します。またこういう機会があれば是非参加したいです。ありがとうございました。

Ng Kok Long (マレーシア)

東京大学大学院修士2年、工学研究科マテリアル工学専攻

私は去年 ABK に入寮する際はフロア学生ではなく、一般の大学院生として入りました。研究生生活が忙しいため、ABK に住んでいる大学生・大学院生と交流する機会がありませんでした。去年の日光ツアーは初めてフロア学生と実際に交流し、とても貴重な機会でした。ツアーをきっかけに、普段他の大学生・大学院生との交流が頻繁になり、仲間を作ることができたと思います。今回の山梨ツアーは去年以上楽しめることができたと思います。去年に比べ、よ



ABK 山梨・富士研修旅行

討論会より

<テーマA>

日本に来て感じた母国との違い、日本文化の特徴について話してみよう

発言者：L（韓国、女） H（モンゴル、女）
Y（中国、女） C（中国、女） X（韓国、女）

L：大学に入学した時に、サークルをすごく大事に考える文化だなと思いました。韓国はサークルという枠ではなく、例えば経済学科だとしたら、その学科の1年生が2年生の先輩と会ってお酒を飲みながら挨拶をするというのが慣例です。

H：日本や韓国は受験戦争がありますね。モンゴルでは高校生くらいから受験を意識すると思うのですが、高校生は夏休みが3カ月くらいありますし、みんなけっこう普通にのびのびやっていて、それがいいことか悪いことかは置いておいて、まだこそまで受験競争という言葉には適していないかなという気がします。

Y：日本人に感じたのはとても静かということ。普段意見をあまり言わない。発言する時は相手の気持ちや場所を考えて発言しますが、はっきりとは言わない。海外での学会に参加すると、後方の席の人は発表者の声が聞

こえないと「I can not hear you」と直接言いますが、日本では絶対にはないと思います。西洋文化と日本文化は違います。中国は真ん中の文化だと思います。それほどオープンではないですが、それほど謙虚でもないです。

H：モンゴルは社会主義時代にロシアの影響がすごくあったので、けっこう欧米の文化が入ってきていて、どちらかというと欧米よりの文化なんです。たぶん最初の頃はアジア的な文化が根強かったと思います。また、昔は他国に攻め入っていたわけですが、他国を支配しようとする、その地域の文化、宗教を殺してしまうことがあるのですが、モンゴルはその国独自の宗教などの文化はむしろ大事に残していて、それがその国を治める秘訣という、そういう文化が残っているんです。

Y：日本の関西弁、沖縄の方言など、どうして東京の言葉と違うかということ、昔の地方の人々は日本の中央政府に反発するために地元の言葉を使い続けたという話を聞いたことがあります。地元の言葉は文化の一つの代表ですから守れば自分たちの文化も守れるということだと思います。

L：はっきりしないのも、日本人の特徴ですね。ダメだったらダメって言って欲しいのに、「いいよ」、「大丈夫だよ」って言われると、その「いいよ」はイエスの「いいよ」か、ノーの「いいよ」かわからない。できないなら出来ないって言って欲しい。「考えてみる」とか、はっきり答えない。最初は

本当にいいのか悪いのかわからなくて困りました。

C: 中国人女性も恋愛に関してははっきり言わないところがあります。好きでも好きな気持ちは相手に伝えない。それは恥ずかしいからということと、相手にぐいぐい来て欲しいからなのですが、そこは日本の女性とは違うかも知れないですね。



X: 男女関係について、日本人の男性は、自分が大事というイメージで、恋人に対して冷たいイメージがあります。自分は自分、彼女は彼女みたいに、いつも分けて考えているように感じます。

L: 日本の女性って、結婚してすぐ会社を辞める人が多いですね。就活止めて婚活したいって言うてる友達も多くて、そこは不思議なところです。

うと。しかもカンボジアに生まれた華僑というのが元々あって、プラス日本に來ちゃって、余計に混乱してしまってます。

J: 私も自分では気付いてないんですけど、たまに中国から友達が遊びに來ると「日本人みたい」って言われます。

H: 私は帰国した時、母国の友達と話すのが辛いです。モンゴル語で流暢に話せなくて、みんなから「どうして？」という目で見られますから。

<テーマB>

郷に入れば郷に従え。どこまで日本に順応する？

発言者: T (カンボジア、男) J (中国、女)
H (モンゴル、女) S (中国、男)
P (カンボジア、男)

T: 日本に順応し過ぎて自分のアイデンティティーが崩壊してしまいそうで、今どうしようかなと思ってます。僕は何人だろ

T: 凄くがんばって日本に慣れたんだけど、いざ変わってくるとこのままでいいのかなと。日本にどこまで合わせるべきなのか、どこかでストップするべきなのかなと考えようになりました。カンボジアで得た自分の価値観とかマナーとかが良くなって、日本のものが良いと思ってそれを学んでみたのですが、そこで思ったのは、自分が昔学んだマナーや価値観にも良いところがあるんじゃないかなと。その国に住んでいる

時はなるべくその国の習慣や価値観に合わせていくべきだと思っていましたが、最近では、そこまで合わせなくていいんじゃないか、逆に合わせてもらうのもありなんじゃないかなと思いはじめています。

H: あまり日本人ぼくしないように、むしろ外国人だということをわかって付き合ってもらおうほうがいいなと最近では思います。外国人だということを理解してもらった方が生きやすいなと思ってます。

S: ほとんどの人は大学以降に日本に来ているわけで、アイデンティティーは既に母国で出来上がっていて、ここに来ているのだと思います。アイデンティティーを喪失した人はだいたい小学校の時に日本に来たという人が多いです。「自分は中国人ですか？日本人ですか？」という人に何人も会いました。そういったケースは我々の理解できる範囲を超えている世界ですから、なんとも言えないのですが。

T: 例えば日本人は集団という意識が高く、自分を犠牲にしても集団のためならやるべきというところがあるかなと僕は思っていて、日本に来たらそれに合わせていこうと思ってたんですが、最近そうするのが辛いんです。それに僕が日本人に合わせる事が、果たして本当にみんなの為になるのかなと思っています。つまりダイバーシティ(多様性)という言葉がけっこう流行っていますから、周りの日本人にも集団的意識ばかりではなく、個人主義に慣れてもら

うというのもありなんじゃないかなと思っています。

S: おそらく日本人が外国人に接する時に、その外国人がいくら日本語がうまくても日本人としては考えられないわけですね。僕らも日本の文化を完全に知っているというわけではないですね。そういう意味では、僕ら外国人が少しおかしい行動をしても許されるんじゃないかな、という意識は1人1人の日本人は持っているんじゃないでしょうか。でも一つの集団になってしまい、周りに合わせようという心理が働くと、そうはいかなくなってしまう。つまり一人一人の日本人が外国人に接する時と、集団で接する時とは違うということです。

J: 私は全然無理に日本に合わせているところはないですね。大声だし、やりたい放題です(笑)。でも来たばかりの時は我慢してましたよ。日本文化はその時全然わからなかったの、具体的に自分が何を要求されているのかとか、この線を越えたら何が起きるのかわからなくて怖かったので我慢してました。ここは母国じゃないし、仲間もないし、当然我慢するしかないでしょ。でもしばらくして、いろいろと自分らしくやってみました、何も怒られなかった。その後は、やりたい放題です。何も言われないのは「この人はもうどうしようもない」と諦められてるからですけど(笑)。

P: 課題なんですけど、日本に来てけっこう日本の文化に合わせて、つまり郷に従っ

て、文化に慣れてきたわけですが、母国に戻った時に、日本の文化と一緒に持って行ってしまって、カンボジアの文化を否定してしまうことがあります。自分のアイデンティティーが無くなってしまうという怖さは私も感じています。

S：自分のキャリアを考えた時に、ほんとに日本で自分のキャリアを展開していいのか真剣に考えないといけないですね。それを考えて日本文化をどこまで自分の中に取り入れていくかを考えないといけない。実際にまわりを見ると、日系企業で働いている中国人がどんどん辞めて、中国に戻っていますから。それはやはり学生として日本のサービスを受けていた時と自分がサービスの供給者になった時のギャップがあまりにも大きくて、その差に堪え切れない人が多いということだと思います。

<テーマC>

トランプ現象についてどう思う？

発言者：A（マレーシア、男） S（中国、男） C（韓国、女） J（中国、女） B（ベルギー、男）

A：なかなか難しい問題なんですけど、ちょうど今週のゼミでもトランプさんの選挙戦略について話題に上がりました。彼は選挙中いろいろと暴言を吐いていたわけですが、当選したのはなぜかという、クリントンさんが数の一

番多い労働力者層の気持ちを取りこめなかったから。トランプさんは差別発言ばかりしているが、それでもクリントンさんよりもマシなのかもしれないと思われてしまったかもしれないですね。

S：実際投票の結果を見るとヒラリー氏を支持する人が多いのに、アメリカの選挙制度上負けてしまったというのは、アメリカの民主主義の制度はおかしいんじゃないかなと思います。

C：選挙結果を分析した報道を見ましたが、トランプが勝った理由は白人の58%くらいが全部トランプに投票していて、しかも高等教育を受けてない人の割合が高かった。

J：アメリカは長年基本的な製造業を中国など他の国に移転してますから、先ほどの教育とかを受けてない人、仕事のチャンスを失っている人の指示率が高かった。社会全体で見ると彼らは人数的に多いわけです。でもトランプの主張が通れば、途上国のチャンスを奪うことになると思う。



A: トランプさんが期待されているのは今までにない大統領になるということです。今までだと政治家からそのまま大統領になった人がほとんどですが、まさかの実業家から大統領になったということで、それで政治が一変するんじゃないかという期待が込められていると思います。一方で今まで政治に関わりの無い人が急に大統領というのはけっこう心配でもあるんですね。

B: 私の一番心配なことは環境問題についてです。彼はオバマ政権が導入した環境問題に対する規制を撤廃すると言っています。オバマ（前）大統領もこのことについてはとても心配していたと言っていました。トランプ氏はオバマ氏の言っていることは間違っているから大丈夫だと言っていましたね。いずれにしても先が見えませんか。

山梨・富士研修旅行 アンケートまとめ

2015/11/19（土）～20（日）

【1日目】

1. 虹の下水道管・自由見学（東京都・江東区）

<よかった点>

- ・実際に下水のシステムがみれた。
- ・知識を学んだ。
- ・映画があって面白かったです。
- ・普段訪れない所なので、初めて訪れることができて良かった。
- ・自分が毎日使っている水をちゃんと綺麗にしてから、自然に還すという情報、知識を得たので、良い勉強になりました。
- ・普段知ることがなかった日常を支えていることを少しでも知ることができてよかった。
- ・インタラクティブ映像は面白かった。
- ・洪水を防ぐ方法や排水管について勉強できました。
- ・環境問題について勉強しました。
- ・下水管の仕組み、気づいていないところを知ることができた。
- ・下水道管の大切さを改めて知った。下水道の重要性が分かった。
- ・自由見学と、水道に関する2つの映画が面白かったです。

・ It was a great opportunity to have a close view on those who work in shadow to keep our sanitation.

・ The video introducing the sewage system in Tokyo. I am also interested in the educational corner where children can try and learn how to fix the pipe system.

<よくなかった点>

- ・体験ができなかった。
- ・あまり説明がなかったのは残念だった。
- ・時間が少なくもう少し時間をかけて説明を聞きながら回ってみたかった。
- ・あんまり勉強にはならなかった。
- ・映画が少し怖かった。
- ・小さい。
- ・日本だけの技術ではなかったので予定が詰め詰めにならないように省いても良かったかもしれないと思った。

2. お弁当

<よかった点>

- ・美味しかった。
- ・豪華な弁当でした。
- ・ボリューム満点で、味も美味しく、満足しました。
- ・パッキングの袋が綺麗なので、お土産としてもらっておきました。

- ・バスの中で食べやすい。
- ・I really appreciate your consideration of my religious rules regarding not eating pork and preparing a special lunch box for me.

<よくなかった点>

- ・レンジがあればよかったなと思いました。
- ・仕方ないけど少し冷たかった。
- ・やはり熱いものの方がいい。温かいものが食べたかった。
- ・お茶ではなくソフトドリンクがよかった。

3. サントリー登美の丘ワイナリー・自由見学

<よかった点>

- ・ワインが美味しくて良かったです。
- ・試飲は最高でした
- ・美味しいワインを味わい、葡萄の庭で散歩をして楽しかった。
- ・自然の風景が良かったです。
- ・安くワインが飲めた。
- ・いろんなワインの種類を味わうことができて良かったです。チーズもおいしかったです。次回行ったら今度はお土産として買ってきたいなと思いました。Chance to try different types of wine. いろいろな種類のワインを試飲できる機会が得られたこと。

<よくなかった点>

- ・ワインに関する説明がもっとあった方がいいかもしれない。
- ・雨なので残念。雲っていて美しい景色が見れなかったのは、残念だった。
- ・ブドウ、ワインの製造が見たかったから、マイナスの期待でした。
- ・もう少しサントリーワイナリーのことについての解説が欲しかった。
- ・見学できなかったのは残念、予め調べておけばよかった。
- ・バス酔いでお酒が飲めなかった。
- ・お酒が飲めない人はちょっと暇だった。
- ・Being close to the manufacturing process

allowed us to be oriented to the effort done to achieve perfectionism.

4. 山梨県立美術館・自由見学

<よかった点>

- ・絵がすごかったし庭もキレイだった。
- ・絵は素敵でした。
- ・美術館自体は豊富な作品があり、外の外観も楽しめるものだった。美術館の広場にある紅葉が綺麗だったので、いっぱい写真を撮りました。
- ・興味深い作品を見ることができた。
- ・様々な画家の絵が展示されていた。
- ・美術館好きです。
- ・絵の説明文が面白かった。
- ・本物の美術作品をみれて良かった。
- ・It's an ideal place to see how Japan is portrayed from different perspectives. I could enjoy many Western art master pieces by Jean-Francois Millet as well as Japanese works associated with Yamanashi.

<よくなかった点>

- ・全体の時間が短かった。Due to time limit, I could not see and enjoy all the works in the museum.
- ・自分に興味がないのが原因かも知れませんが、絵画を見ていても面白くなかったです。
- ・時間が短かった、もっとゆっくりで見たかった。美術館の外も見たかったが、見る時間がなかった。
- ・美術はよくわからない。個人的にミレーの作品が好みではなかったし、ミレーと似た作品ばかりだったのでそこが少し残念でした。でも美術館自体の見学は良かったです。

5. レイクホテル西湖

<よかった点>

- ・温泉は気持ちよかった。

- ・夜までトランプをやったりして騒音をたてたと思いますが、全然平気でした。
- ・晩、無料で利用できる温泉もよかったが、早朝にホテルの温泉も使えてよかった。
- ・食事、部屋の広さなどはとてもよかった。
- ・三人の部屋のサイズはとてもよく、お風呂も近かった。
- ・温泉を楽しみました。
- ・皆でゆっくり遊ぶ部屋があり、部屋は広いしキレイだった。
- ・温泉に入れて最高だった。本当に本当に満足しました！
- ・部屋もとても広くて、和式風の空間もあるし、ゆかたもかわいかったし、トイレと洗顔室が分けてあることも良かったです。
- ・無料のwifiもあって便利だったし、本当に満足でした。
- ・The hot spring is the best thing that I liked most. It's my first experience with it. Big and comfortable room. Nice Onsen.

<よくなかった点>

- ・和式のお部屋に泊まりたかった。
- ・温泉に入る時間が早かったところです。
- ・部屋に冷蔵庫がありませんでした。
- ・温泉はもっとゆっくりと入りたかった。
- ・温泉が外にあること。

6. 夕食

<よかった点>

- ・鍋は凄く美味しかったしマヨネーズも提供してくれた。
- ・サービスをしてくれた方のノリが良かった。
- ・皆自由に話せました。
- ・一日の終わり、風呂上がり後に、食べる夕食最高でした！
- ・和食で温かいトン汁とその他のおかずなどとてもおいしかったです。
- ・Everything was purely on the traditional Japanese way. Delicious Japanese cuisine.

<よくなかった点>

- ・揚げ物は冷めていた。
- ・もっと高級な料理を期待していた。ホテルの料金と関係があるかと思いますが、去年のと比較したらちょっと違いました。特徴的な食べ物はありませんでした。
- ・夕食で芸の披露大会とかやったら面白いかも。

7. 討論会

<よかった点>

- ・色々な国の文化や知識を学ぶことができました。
- ・グループを変えて、色々な人の意見を聞くことが出来てよかった。
- ・中々面白いことや自分では思ってもなかったことを聞いた。
- ・英語グループもあって、日本語が難しい人に優しい。
- ・去年よりよくできました。テーマもはっきり、話も聞こえました。
- ・少人数のグループで意見を十分交流しました。
- ・話題は面白かったです。
- ・外国の人の考えを知ることができた。
- ・皆と深い話ができた。
- ・Sharing of different points of view was an amazing opportunity to see hidden aspects that I was not aware about before. Great chances to share opinions and ice-break.

<よくなかった点>

- ・政治には詳しくないし英語もしゃべれないので難易度はちょっと高いと思う。
- ・トランプ氏の話になるとあまり知らないのどんな意見を言うのかわからなかったです。
- ・アメリカの政治のテーマだったので、自分の意見を述べるできませんでした。
- ・参加者全員がより均等に討論に参加できたら、もっと良い討論会になったのではないかなと思った。
- ・決まったテーマを決まった席でやるよりも動くのを自由にしてやった方がいいと思う。

- ・日本語できない人が難しかった。
- ・喋らない人にも話を触れるように司会のような人をグループごとに決めておいてもいいかもしれないと思った。
- ・もっとみんながたくさんのひとと討論できるように席替えが少しできてなかった点と、討論しているときにあんまり一人だけ話すと、話がずれる時などにそのバランスを保ってくれる司会者がいたらもっとよかったかなと思います。
- ・Members in each group should be more actively involved in the discussion.

8. 2 次会

<よかった点>

- ・トランプすごく楽しかった。
- ・ほとんど皆が参加して楽しめた。
- ・とっても、大変良かったです。
- ・トランプをやったりしている間に皆と仲良くして、友達のように親しく感じました。
- ・友達とより仲良くできました。
- ・いっぱい話して、いっぱい遊びました。とても楽しかったです。
- ・トランプ大会またやりたい。一気に皆と仲良くなれた。
- ・Engaging in such party helped to break the ice between many members and served as an initial step toward building good friendship relations. Good snacks, nice games. It was also a good time for chatting and sharing personal experience as well as making friend.

<よくなかった点>

- ・2グループに分かれていたので、グループの間の交流はあんまりなかった。
- ・少し残念だったのは、二次会の時に話をしているグループとカードゲームしている二組に分かれていて、もう少し大人数でできるレクリエーションがあったらもっと楽しかったかなと思いました。

【2日目】

9. 朝食

<よかった点>

- ・バイキング式で、自分の好きなものだけ食べれて幸せでした。
- ・選択肢も多くて美味しかったです。
- ・種類豊富で、ゆっくりと食べられた。
- ・栄養あるメニューだった。
- ・Beside variety of food, it was very delicious. I liked it.

<よくなかった点>

- ・もっとバリエーションが欲しい。

10. 西湖野鳥の森公園・青木が原トレッキング

<よかった点>

- ・景色もすごかったし知識も学んだ。何よりガイドさん面白かった。
- ・素敵なお店でした。
- ・運動企画を入れてくれたのは非常に良かったです。
- ・もう少し、アドベンチャーのあるものでも良いかと思います。
- ・今の季節、トレッキングで自然と触れて、植物や公園の情報を地元のガイドからの説明を聞いていたので、あっという間にゴール地点まで歩きました。
- ・ガイドさんによる解説を聞きながら進むのはよかったです。
- ・ガイドさんがいたおかげで、青木が原の背景・歴史がよく分かった。ずっと行きたかったところです。
- ・気持ちのいい朝の散歩でした。富士山のいい空気と自然の中のトレッキングとてもよかったです！
- ・ちょうど天気も晴れてきれいな青空の下でいい写真もたくさんとれました。
- ・We spent a great time enjoying the nature. I could learn and see many types of plants, how to identify directions in the forest.

<よくなかった点>

- ・時間が短い分足腰が弱い方への配慮をもう少しできればと思った。
- ・ガイドさんは歩くのは速かった、そのスピードで歩けない人もいたので、もっとゆっくりと歩いたほうが良いと思った。
- ・もう少し時間かけて長く歩きたかった。

11. 鳴沢氷穴・見学

<よかった点>

- ・狭いところが刺激で面白かった。
- ・自然の中でできた氷なのは中々興味を引くものがある。
- ・昔の人の氷の利用方法が分かって面白かった。
- ・涼しい氷の空気とにおいが気持ちよかったです。
- ・I have never been in such place. It's an amazing experience. Interesting experience to go through the cave.

<よくなかった点>

- ・すごいと思うところはなかったです。
- ・時期的にもあまり見るものはなかったので残念だった。
- ・見るところが少なく、さらに氷穴に入っても綺麗に見えませんでした。
- ・思ったより通路が狭く、歩きづらかった。
- ・ちょっと短かった。
- ・氷穴の仕組みを知りたかった。
- ・場所が滑りやすく入りづらかった。
- ・登りと下がり方が少し危ないのと、頭がぶつかるか心配でした。
- ・It was a little pity not seeing ice during this season. It would be better if there was a tour guide to explain about the cave.

12. 見晴らし園

(1) 昼食

<よかった点>

- ・溶岩の上で焼肉って面白いし、おいしかった。
- ・野菜と肉が食べれて美味しかった。

<よくなかった点>

- ・肉の量が少なかったです。
- ・教えてもらった焼く方法が間違っていない？野菜が焦げる。
- ・時間が短かった。もっとゆっくりと食べたかった。
- ・食事は果物狩りの後のほうがいいかも。急いで食べなくてはいけなかった。

(2) リンゴ狩り・ブドウ狩り

<よかった点>

- ・りんごとブドウは美味しかった。
- ・とりたてのフレッシュのリンゴとブドウが食べられました。
- ・直接自分の目で大きいリンゴが見れました。
- ・面白い体験でした。新鮮な経験で、楽しかった。
- ・自分で取るのはよく、一番新鮮な感じがした。
- ・りんごとブドウがなかったらどうしようとし心配だったのですが、あってよかったです！
- ・Beside enjoying the nature and taking many beautiful photos, we were allowed to pick up and eat fresh fruit.

<よくなかった点>

- ・ブドウはちょっと酸っぱくおいしくなかった。(ブドウの種類が原因かも知れません。)ぶどう狩りは時期的に終わっていた(ぶどうの旬が過ぎてしまった)ので、限定的なものしか残ってなかったのは残念だった。
- ・昼食を食べてからだからあまり食べられなかった。
- ・時間が短かった。

13. 山梨県立リニア見学センター

<よかった点>

- ・科学を感じることができた。
- ・リニアのことが前よりわかって来ました。
- ・説明が良かったので、これは知識になった。実験も面白かったです。
- ・解説も聞いてよかった。リニアの操作原理などが勉強になった。
- ・ハイテクに感心しました。色々な実験や体験が

できてよかった。

- ・勉強になった。日本の独自技術がみれて、体験できて面白かった。
 - ・ The orientation session of the scientific background of how the bullet train works. Great opportunity to see and learn about the fastest train in the world and high technology in train manufacturing. I also enjoyed the hands-on corner and the experiments.
- <よくなかった点>
- ・もう少し時間が欲しかった。

14. 研修旅行全体について

<よかった点>

- ・全部計画的で楽しかったし、友達も出来た。
 - ・みんな積極的に参加しました。
 - ・様々な体験を皆と体験できて、非常に思い出深いものとなった。
 - ・秋の季節で、大自然と触れること、住んでいる寮の友達、職員達ともっと仲良くできました。
 - ・普段知ることがないことにも触れてよかった。
 - ・バランスが良かった。
 - ・他の国の留学生と一緒に旅行するのは楽しかったです。また、東京の学校と離れ、自然から新しい気持ちと元気をもらえました。
 - ・皆一緒に楽しかったです。
 - ・非常に安価で、おいしいものを食べ、いいホテルに泊まり、温泉も行けて最高でした！
 - ・ Extremely organized and well prepared trip that introduced me to many aspects of the Japanese community. I could visit many interesting places, have chance to talk and learn more from many people from different background, learn more about Japan and experience Japanese culture (cuisine, onsen).
- <よくなかった点>
- ・盛りだくさんの企画だったので、少し減らす変

わりにもう少し充実させても良いかなと思う。

- ・時間の割にいてある予定が少々多かった。
- ・ゆっくりできる時間がもっとほしかった。時間にゆとりを持ってやっていてもよかった。
- ・少し予定が詰め過ぎだった。
- ・見学センターや美術館など旅行の意味に入るのかと疑問になる部分もあったのですが、そこでも寮のみなさんと思い出をたくさんつくることでできていい思い出になりました。
- ・旅行とはどこへ行っても一緒に楽しめる人がいれば、なんでも楽しいんだと気づかされました。

15. 来年も研修旅行を希望しますか

<希望する理由>

- ・すごく楽しかったので同じメンバーでまた旅行したいと思うが来年はもう日本にいない。また新しい人との交流も楽しみたい、行ったことのない所に行って見たい。
- ・楽しい研修旅行で、新しい知見、知識を身につけられるし、新しい友達もできたから是非また行きたいです。
- ・皆さんとの繋がりができる機会だと思っている。なかなか会えなかった友達と会えるし、日本語の上、英語の会話もできますからまた参加したいと思います。
- ・新しい友達を作りたいです。普段交流するチャンスが少ないので。色々な勉強になるし、新しい人たちにも知り合える。来年には、退館する方も新しく入ってくる人もいますが、またそのメンバーとも素敵な思い出をつくりたいです。
- ・ It introduced me to many aspects of the Japanese community and made me interested in knowing more and more about that great society. Because I can learn many things from the trip and make friend with many people.

<希望しない理由>

- ・卒業制作のこともあって、参加するのは難しいかと思う。

奨学団体に聞く

公益財団法人 高山国際教育財団

TAKAYAMA INTERNATIONAL EDUCATION FOUNDATION

日本で真剣に学ぶ留学生たちが安心して勉学に励めるよう、経済面のみならず独自の交流行事などを通して、時に精神面をも支える奨学団体。その活動と魅力を紹介する本コーナーの第3回目は、今年度設立15周年を迎えた高山国際教育財団にお邪魔し、事務局長の熊川孝さんと事務局の高橋昭夫さんにお話をうかがいました。

＜概略＞初代理事長で伯東株式会社の創業者である高山成茂雄氏の「平和や幸福の原点は教育にある」という思いのもと、2001年に設立された高山国際教育財団。日本で学ぶアジア諸国からの留学生を支援することで将来における国際人の育成を行い、日本と諸外国との国際調和をはかることを目標に、奨学金事業と宿舍事業を展開している。

〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-9-23 SVAX 新宿ビル B 館 6 階

☎ 03-3225-8058 E-mail TIEF@takayama-foundation.or.jp URL <http://takayama-foundation.or.jp>

＜奨学金プログラム＞

① 日本語学校生

対象：大学または大学院進学のため当財団が指定した日本語学校に在学している来日1年1か月以内の者（募集年度の4月1日が基準）

募集人数：20人程度

奨学金：月額6万円

支給期間：1年間

② 大学学部生

対象：原則として大学学部第1学年在学者、正規学生、年齢30歳未満

募集人数：20人程度

奨学金：月額12万円

支給期間：2年間

③ 大学院生

対象：修士課程…正規学生、年齢35歳未満。博士課程…正規学生、年齢40歳未満、オーバードクターは不可

募集人数：10人程度

奨学金：月額15万円

支給期間：2年間（原則）※採用時の在籍学年による

④ 特別奨学金

対象：当財団から奨学金の支給を受けている博士課程または博士後期課程在学中の成績優秀な奨学生で、真剣に学位取得を目指し努力している者。

募集人数：2人以内

奨学金：月額15万円の奨学金に加え、1年間の授業料相当額（原則大学宛てに振込み、授業料免除がある場合は免除分を差し引いて支給する。但し、年間100万円を上限とする）

支給期間：最長3年間。但し、月額分の支給は学位取得月をもって終了し、授業料分の支給は学位取得年度をもって終了する。

<宿舎：高山留学生会館>

部屋数：男子7名、女子7名

部屋代：月25,000円～27,000円

対象：高山財団奨学生（特別奨学生を除く）で大学学部あるいは大学院に在籍する単身で生活する正規学生。

入寮期間：4月1日から翌年3月25日までの1年間。ただし、大学学部あるいは大学院の最短修業年限以内で、毎年選考委員会で学業成績および生活状況を審査し延長を認める。

日本留学のスタートは 日本語の習得から

—— まず創設者であり初代理事長の高山成雄氏は、どのような思いで御財団を設立されたのでしょうか。

熊川： 高山成雄は戦争経験があり、そのため日本の近隣諸国に対する非友好的な行為を振り返った時に、自然と自分の役割が見えてきたということを言っていました。そして、「平和や幸福の原点は教育にある。アジア諸国の平和と友好を深めるには青少年の教育が大事だ。」ということで、この財団の設立に至ったそうです。

—— それを受け財団では、奨学生たちにはどんな人に育って欲しいという願いがあ

りますか。

熊川： まず一番は、日本をよく理解する人になって欲しいということです。その上で様々な国から来ている留学生同士の交流を深めてもらいたいということです。そういったことを通じ学生時代に培った人間関係が、将来社会に出てそれなりの立場になったとき、それは日本のためになるのはもちろんのこと、アジアの国同士がお互いに協力して物事を進めていける、そして地域の平和と発展が期待できるということです。

—— 日本語学校生が対象になっている民間財団の奨学金は大変少ないと思いますが、設立時から対象は現在と変わっていませんか。

熊川： 当初から現在とほぼ同じ形でスター

トしています。日本語学校生を支援するということについては、高山自身の「日本留学のスタートはまず日本語の勉強から」という思いがあったからだと思います。ですから初年度はトータル25名でスタートしているのですが、日本語学校生の比率は高くして10名でした。

給付金額については徐々に上げてきています。例えば当初大学学部生は月額5万円だったのですが、現在は12万円になっています。

—— 日本語学校の場合は指定校が16校で20人の採用ということですが、1校あたりの推薦枠というのは決まっているのでしょうか。

熊川： 1校あたり1人か2人で、これは毎年ローテーションで一人お願いするところと2人お願いするところと分れています。日本語学校生に奨学金の支援をしている財団というのは少ないので、学校はかなり優秀な人を推薦してくるということになります。ただ、日本留学の第一歩である日本語学校のところで成績が優秀な人だけということで採用すると、ほとんどが中国人になってしまうということがあります、2人推薦の場合、一人はできるだけ漢字圏以外の方で、というお願いをしています。

—— 指定校はどのように選ばれているのでしょうか。また定期的な更新はあるのでしょうか。

熊川： 更新というのは行っていません。日本語学校については原則文科省の準備教育課程認定を受けている学校を指定校とさせ

ていただいています。大学と大学院については当初どう決めようかということで、高山と前事務局長の福元とで検討をした結果、親会社である伯東（株）の社員の出身校（大学と大学院）を過去3年程調べて、出身者の多い学校を指定校にしたと聞いています。その後、2011年に公益財団になる際に見直しを行い、文部科学省の資料から留学生の多い大学を調べて、大学2校、大学院2校を増やしています。ただこれは偶然なのですが、調べてみると既存の指定校の大多数が留学生受け入れ数上位30校に入っていました。

—— 留学生の多い学校は地方にもありますが、指定校は関東の学校のみとなっていますね。

熊川： これは東京で財団の例会を開催し、運営するにあたって、容易に参加できることが非常に大事だという観点からそうしています。財団としては、奨学生にはただ勉強をして優秀な成績をとればよいというだけではなく、更に国際人として育ててもらうため、いろいろな国の人と交流してもらう、そういった場所を提供して行くことを非常に重視しているのです。

—— 指定校制ということで、ある程度応募者は絞られていると思いますが、最終的な選考ではどのようなことを重視されるのでしょうか。

熊川： 大学1年生の場合は日本語能力を最も重視しており、日本語能力試験の結果なども考慮に入れています。というのは、大学に入ってすぐ授業についていけるかど

うかということを非常に心配していますから、日本語はある程度のレベル以上は必要だと考えています。それから作文を提出してもらっています。そこに将来の展望がはっきり書かれている方は有利になるかと思います。あとは母国からの仕送りの金額です。最近是非常に裕福な学生もいて、奨学金を遥かに超える金額を親元から受けている場合もあり、そういった場合、選考では不採用とするケースもあります。これはなかなか難しいところですが、毎回採用時に問題になる部分で、飛び抜けて優秀という学生の中にはそういうケースも少なくありません。もう一点は、アルバイトの状況なども考慮して、苦学している人にはできるだけ手を差し伸べたいと思っています。

—— 大学院生には日本語力は問わないのでしょうか。

熊川： 面接には日本語が不自由な学生さんも時々います。その場合は面接を英語で行うこともあります。ですから一概に採用しないということではありませんが、少々不利になるのは事実です。言葉の問題がなぜ大事かというと、当財団が重きを置いている例会（交流会）での会話は日本語で行うよう指導しているからです。奨学生にはやはり中国の方が多いのですが、中国人同士がかたまって中国語で話されてしまうと、ほかの国の方が仲間に入って行けないわけですね。それで交流するためには共通語が必要だと思い、これをあえて日本語に限定しています。そういったことで、私どもの財団では日本語というものを大事にしてい



熊川さん

るんですね。

—— 学部生は1年生に限定していますが、どのような理由からでしょう。

熊川： 学部は1年時に採用すると2年後の3年時にまた再応募できますから、結果として4年間、卒業まで支援を行えるからです。ただし再応募の場合、倍率的にはかなり厳しくなり、合格者は応募者の50%くらいになります。

—— 再応募の方の選考ではどのようなことが重視されますか。

熊川： もちろんそれまでの成績が優秀であることは大きな要因ですが、最も大切なのは面接です。勉強していることについて選考委員の先生方から問われた時に、はっきり受け答えが出来るかどうか。自分の勉

強が将来どういったことに役立つのかということを本人が自覚しているかどうかという点が重視されます。またその他人間性というのも見えています。

——— **大学院生には授業料相当額を支給する特別奨学生というカテゴリーもありますね。**

熊川： これは2013年からスタートしたまだ新しい制度です。財団の奨学生の中でも優秀な学生、特に博士を目指している学生に対しては更なる支援が必要なのでは、ということになり、その後大学院生の生活状況についてアンケートをとるなどいろいろ調査を行いました。その結果、博士を目指すとなるとアルバイトをする余裕は全くなく、そうすると現状の奨学金のほかに授業料の支援も必要だということになったんです。最長支給期間は3年なのですが、ここでポイントとなったのは文系の学生は通常3年間では博士号をとるのは大変難しいということです。2年から5年もオーバーしてしまう人もいます。そこで、その辺も考慮して支援したらどうかということになったんです。応募は博士（後期）課程1～3年次にできるので、学位取得まで支援を受けられるということで、安心して研究に集中できるのではないかと考えています。

留学生たちが母国を紹介

——— **では例会についてお聞かせください。どのようなことを年何回行っているのでしょうか。**

熊川： 例会はもともと、外部から講師を招いて日本文化について勉強してもらうという趣旨でスタートしましたが、今は学生自身が講師を務めるという形が主になっています。学生の場合は母国の紹介が中心になりますが、その他に自分の研究や関心のあること、例えばエネルギー問題やボランティア体験について話したいという希望があればそれについて発表してもらっています。それが会の前半部分で、後半は少しご馳走を用意して、懇親会を行っています。普段節約してあまりいいものを食べていないという学生も多いので、ここでは美味しいものを食べながら交流して欲しいと思っています。

その他、お正月にはお楽しみ企画として落語やお神楽、手品など、プロの方を招いて日本文化を楽しんでもらっています。また、秋には日本の踊りということで、民族舞踊集団さんをお願いして、民謡に合わせた踊りを披露してもらい、観賞しています。

他にも、折り紙会館の館長さんに来ていただいて折り紙を学んだり、親会社の煎茶道クラブのメンバー呼んでお点前をしてもあったり、そういったことを年6回やっています。

——— **留学生同士がそれぞれの母国を紹介し学びあうというのは、お互いの国を知るのにとってもよい機会ですね。**

熊川： やはり母国を紹介する場が持てるというのは本人たちにとって、誇り高いことといえますか、モチベーションが上がる嬉しい機会なのだと思います。

高橋： この前プレゼンをしたのは、唯一のカザフスタン出身の日本語学校生だったのですが、まだ日本語が十分ではないけれどもぜひやってみたいと名乗り出てくれました。私たちも少々心配しましたが、結果はすごく好評で、ほかの奨学生はみんなカザフスタンのことを知らなかったようで、質問が相次いですごく盛り上がりましたね。

—— 普段の例会の参加者はどのくらいになりますか。

熊川： 昨夜行われた1月例会は人気のある落語だったこともあり、奨学生112名のうち90名が出席しました。ほかに会館生が3名、OBが5名ほど、それに関係者、財団の役員なども含めると参加者は全部で125名ほどだったと思います。

—— かなりの大人数ですね。この例会とは別に研修旅行があるわけですね。

熊川： 旅行は日帰りです。春と秋に実施しています。春は工場見学、秋は文化体験といったことがメインになります。バス2台で出かけるのですが、定員は100名で、参加者は現役の奨学生、OBが優先され、人数に余裕があればそのご家族もOKですから、秋は補助席も使ったりして110名くらいになることもあります。

—— 例会や旅行への参加は義務なのでしょうか。

熊川： 例会出席は義務としています。ただし試験や病気などその時々都合もありますから、事前に連絡を入れてくれれば欠席も可ということになっています。実は私がこの財団に参加した2012年までは例会で



高橋さん

奨学金を直接学生に渡していたんです。というのは、それをやらないと例会に人が集まらないのでは、という心配があったからです。一度に1000万円ほどの現金を準備しておよそ100人の奨学生一人一人にお金を配るわけですが、その場で領収書ももらわないといけませんし、大変危険でもあります。そこで思い切ってこの例会での現金支給を廃止したわけです。

—— それでも例会への出席率は変わらなかったのでしょうか。

熊川： そうですね。最初にしっかりとオリエンテーションを行い、例会の趣旨といったことをよく理解してもらうことが大事なんだと思います。それにプラスしてみんなが来くなるような企画、本人たちが自主



春季研修会（「キッコーマンもの知りしょうゆ館」見学）

的にプレゼンをやりたくなるようなムードをこちらが作る努力をしています。努力をするとそれに伴って結果も良くなるもので、以前現金を渡していた頃よりも今の方が学生の出席率は上がっています。

—— 例会と研修旅行のほかに定期的な面談などは行っているのでしょうか。

熊川： 例会以外では特に決められた面談というのはしていませんが、生活や学業面のこと、なかには母国のご家族の問題など、かなりプライベートなことで相談に来る学生もいます。

—— 奨学生とスタッフの間に深い信頼関係が出来ているということですね。

OB・OG会の発足と 高山留学生会館

—— それでは、これまでの奨学生の数ほどのくらいになるのでしょうか。

熊川： 15年間でみると663名、延べ人数で言うと998名になります。今年はここに2016年度生64名が加わります。

—— OB・OGとの関係作りに関してはどのようなことをされているのでしょうか。

熊川： 今年度ちょうど15周年で、昨年の11月に記念式典を開催したのですが、その時にOB・OG会

を結成することが決まりました。今は結成に当たって11名のOB・OGから手伝いたいという連絡をもらっていて、準備を進めているので、まずはここからスタートしたいと思っています。

高橋： これまでも例会の案内を送ったり、年報を送ったりしています。海外の方にも同じように連絡をしています。

—— 実際に連絡が取れている方はどのくらいいますか。

熊川： 1/4弱、200名ほどではないかと思っています。ですから、まずは国内でしっかりした会を作って、いずれは海外でもやりたいなと思っているのですが、今はメンバーをもう少し取り込んで、大きくしていきたいと思っています。

—— では次に高山留学生会館について教えてくださいませんか。こちらの寮は一般公募をしていますか。

熊川： 会館は2002年に運営を開始し、当

初はできるだけ私たちの奨学生ではない留学生を優先して入れていたのですが、部屋数が少ない（男性7名、女性7名）中で公募をしてしまうと、応募が殺到してしまい対応し切れなくなってしまうということで、わりと内々でやっていました。ただ、近いうちの宿舎建替えにあたり指導官庁と相談の上、昨年の5月に奨学金事業と宿舎事業の統合をすることが決まり、2017年度からは奨学生に絞って募集をするということになりました。

実を言いますと、私がこの財団にきた2012年当時は宿舎まで手が回っていないという状態でした。会館生のケアはほとんど出来ておらず、みな例会にも参加してこない。ただ安いアパートに住んでいるような状態だったんです。その後努力して、今では例会に参加する人は増えましたが、統合することの理由にはそういった面も含まれてはいます。

—— 会館の管理や在館生とのコミュニケーションはどのようにとられているのでしょうか。

熊川： 財団のスタッフとのコミュニケーションがあまりとれていないという状況を変えるため、会館生だけの集りの回数というのを増やしたんですね。新年会はもともとやっていたのですが、そのやり方を変えたり、それまで行っていなかったオリエンテーションや新入生歓迎会、納涼会といったものも始めました。そしてそれらを学生主導で行っていきえるような形にしたんです。

高橋： 会館には管理人がいますので、月

二回、私も現地に行って、管理人とその時々の問題などについて話しをしています。新入生歓迎会は他の留学生寮さんのお話を参考に始めていたのですが、思った以上の効果がありました。これを行っていなかった時は、学年も国も違うということで、お互い話しぶらいということがあったわけですが、入館時にこの歓迎会をやることで、そこでみんながLINEのアドレスを交換するなどして、仲間意識を持てるようになったんです。そしてそこから自然にリーダーのような存在が出てきたり、こちらで特別指導をしなくても、お互い誘いあって例会に参加するようになったりしました。

掛け橋となる人材を育てる仕事

—— 現状、課題等があればお聞かせください。

熊川： 一番の課題と感ずるのはやはりOB・OG会ですね。どういうふうにかの会を発展させていけるのかということが大きな課題だと思っています。一方で、現役の奨学生についてはスタッフの数に対して人数が少し多すぎるのではと感じています。今、親会社の方が好調ですから、公益という財団の立場からすると、金額を増やして奨学生の人数を増やして行くということになるのですが、必ずしもこれがいいことだとは思っていません。というのはサポートの質の問題があるからで、現在のサポート体制から考えると、奨学生数については減らしたほうがいいのではないかと感じています。



創設者である高山成雄初代理事長の肖像画とスタッフの御三方

す。財団の趣旨がどこにあるのかということに常に考えて仕事に取り組む、そういう立場に立って成果が得られるということが大事なんだと思っています。組織の維持ということになると、どうしても会計上の問題といったことに囚われてしまうわけですが、そうではなくて、奨学

高橋： 少し前に会館の新年会を行ったのですが、卒業しても参加したい、出てもいいですか？という学生がいて、それは今後の課題だと考えています。例会にはOBも参加できるのですが、会館の中の新年会や納涼会については現役の会館生のみに限定していますから。

熊川： 例会ですと、我々も忙しくしているので、お互い声をかけづらいというのがありますが、会館の歓迎会は少人数でアットホームですから、和気あいあいとしていて、また出たいという雰囲気生まれるんですね。

—— お二人とも企業人という立場から、奨学金団体のお仕事に移られたわけですが、やりがいということについてはどのように感じられているのでしょうか。

熊川： 働くというより、ある程度ボランティアの気持ちでこの仕事には臨んでいます。

生が支援を受けて立派な社会人になり、そして彼らが最終的に国際人となっていずれ日本との架け橋になっていくという。そういったことが実感できればいいなと思いながら取り組んでいます。

高橋： これまでこういった仕事に関わったことはなかったので、サラリーマンからここに来た時に、最初はどうかというのかわからなかったのですが、奨学生と付き合っていく中でいろいろな相談を受けたりして、彼らに対して徐々に親しみが出てきたというのが、まず身近なところでの実感です。一方で長いスパンで見ると、財団の趣旨としての親日派を作っていくという大きな仕事を、ほんの一部ですが、担っているわけで、非常にやりがいがあるなと感じています。

—— 御財団のますますのご発展を期待しております。ありがとうございました。

日本留学で変わった自分

リー テーチスルン (Mr. Ly Techsrun) ～カンボジア

早稲田大学 商学部 3年生

日本を選んだ理由

僕が留学に関心を持ったのは中学三年生の時で小さなマーケティング講座に参加したのがきっかけです。親が商売をやっていたこともあり、マーケティングって面白そうだなと思い行ってみたのですが、講師の先生が海外への留学経験のある人で、講座も外国の話もとても面白かったんです。最後に彼は「私はお金がなかったけど、がんばって奨学金をもらい留学して良かった。外国に行かないと自分の国が本当はどういう国なのかわからない。チャンスがあったら留学することを勧めます」と話したのですが、僕はその言葉に心動かされたんですね。

それで、留学するとしたらどこの国に行けるのか、どんな奨学金があるのか少しずつインターネットを使って調べ始めたんです。同時に奨学金試験に合格するための対策講座を受けるため塾に通い始めました。

具体的に日本に行きたいと

思ったのは、その塾の講義の中で日本に留学している先輩の話聞く機会があったからです。その先輩はすごく優秀なのに謙虚で、なおかつ責任感の強さや他人への思いやりを持っていました。

カンボジア人って自分が一番大切に、他人のことを思いやる余裕のない人が多いのですが、日本に行けば、自分も先輩のような人間になれるかもしれないと思ったんですね。

カルチャーギャップ!?

日本に来て驚いたのは自転車が多いということ。カンボジアでは自転車に乗る人＝車やバイクが買えない人＝貧乏人ということなんです。

しかも日本ではスーツを着て自転車に乗っている人がいる。カンボジアではスーツはCEOの証みたいなものですから、初めて見た時は「ありえない!」っ



て、目が点になりました(笑)。

そして大変だったのは、「すみません」や「ありがとう」といった言葉が言えなかったことです。なぜかというとカンボジアはお礼やお詫びの言葉を頻繁に使う文化ではないんです。例えば日本だと待ち合わせで5分遅れたら、相手に「すみません」って言いますよね。逆にその言葉が出ないと相手は「あれ?」っと思ってしまい、空気がおかしくなってしまいます。

ところがカンボジアで「すみません」と言うと、日本語で「大変申し訳ありませんでした!」



初めての早稲田祭で

と言うほどの重い意味になってしまうので、めったに口にすることはありません。だから、最初は自分の中にある「すみません」と日本社会で使う「すみません」との重みの違いの大きさに、物凄く戸惑いました。

それから、挨拶も違いますね。カンボジアでは普段「おはようございます」、「こんにちは」って言いません（笑）。笑顔で会釈をする程度でしょうか。なので、日本に来て先生から「おはようございます」って声をかけられても言い返さなくて、それが出来るようになるまで時間がかかりました。

もう一つ、日本に来てわかったのですが、カンボジア人は「わかりません」とはっきり言いませんね。これを言うのもなかなか難しい（笑）。「これ出来る？」と聞かれて、もし「出来ない」、「わからない」という時は「うーん」って黙り込むんです。黙り込む＝出来ないということなんです。日本で黙っていたら、ほとんど事が進んでしまい、慌て

たこともありました。

どれも簡単に出来そうなことですが、出来るまで時間がかかります。だから文化や習慣の違いってこわいなあと思います。逆にカンボジアに帰って「ありがとう」「すみません」を連発していると、友達におかしな目で見られますから（笑）。

大学生活での様々な思い

僕はいったんカンボジアの大学に入学して1年生の終わる頃、日本国政府の奨学生として来日、大阪で日本語学校に1年、専門学校に2年間通い、3年生から早稲田大学に編入をしました。早稲田の出身者には芸術家から経営者まで様々な人がいて、学問だけではなく、自分には欠けている対応力や多様性という面も身に付くのではと思ったんです。

実際に入学してみるとその通り、特に今のゼミ生はみんな個性的でそれぞれ自分を持っています。真面目一本の人、頭の

回転が速い人、盛り上げ上手な人…。彼らの中にいると、優秀って、真面目で知識が豊富なことに限らないんだというのがわかります。そういう環境で、じゃあ自分はどんな人間になればいいのか、どう貢献すればいいのかということを日々考えています。考え過ぎて答えが出ないんですけれど…。

また、それに加えて自分はまだみんなの仲間になり切れないなあという寂しさも感じます。お互い冗談を言ったり、いじり合ったりする時に、自分にだけはみんな遠慮しているのがわかるんですね。お客さん扱いされているというか…、外国人だから優しく接しよう、と、遠慮して気を使ってくれているのだと思うのですが、僕の中では遠慮＝仲間じゃない、という認識ですから、そこはもっとガンガンきて欲しいなと思うところです。

一方で、勉強という面では不満はありません。カンボジアの大学では主に欧米の教科書を使っているのですが、事例などもその国のものなんですね。例えばカンボジアにはないマクドナルドの事例でマーケティングを学んでいますから現実味がないですよ。でも日本では日本の先生が日本の企業活動の事例を取り上げて説明をしてくれますから、すごく身近でわかりやすい。この会社の、この商品やキャン



大学のゼミ合宿で訪れた河口湖駅前で



ABK の研修旅行で訪れた鳴沢氷穴で

ペーンはこういった狙いで作られたんだと説明されれば、実はそうだったんだと納得できる。それは日本留学ならではだと思えます。周りに参考になる事例が溢れていて、それは狙い通りだったという感じです。

今の時代、ネットを使えばいくらでも勉強できますし、知識を得るだけなら、どこで学んでも同じなのかもしれません。留学の良さは体験し実感できること。身近に触れて納得できることだと思います。

少し悩んでいるのは、これから学問にどう向きあうかです。それは日本で就職する場合、大学で学んだ専門性や成績はあまり重要ではないことがわかってきたからです。カンボジアやアメリカではそれらはとても重要で、一般的には文学部の人が銀行の求人に応募することはできません。一方日本では専門性や成績よりコミュニケーション

力などの人物像が問われますよね。最近それを知って、少し気が抜けてしまったような気がしています。もともと僕の学問に対する意欲ってどこまであったのだろうって、最近考えることがありますね。

カンボジア人にとっての 日本留学

留学は人間性が高まりますし、生きる力が身に付きます。僕は塾で出会った思いやりのある先輩に憧れて日本に来たわけですが、ちょっと近づきつつあるかなと感じています。日本人って、他人の迷惑にならないように（もしかすると無意識に）配慮して行動してます。そういう所に慣れて自然に実践できるようになってきたのは自分的に嬉しいなあと感じています。また、カンボジアでは、カンボジア人同士お互い助け合った経験がなかったの

ですが、日本ではカンボジア人留学生同士がお互いに助け合い留学生活を送っています。気が付けば自分も後輩を思いやっている、そんな人間になりました。

その後輩たちへのアドバイスは、メリハリをつけた留学生活を送って欲しいということです。ここは大事だということです。時は死ぬほど勉強する、休む時は思い切り休むということです。特に日本に来て最初の1年間は必死に日本語を勉強すること。そこで適当にやってしまうとその後ずっと悪い影響が残ります。また、出来るだけ早く友達を作った方がいいですね。自分の思っていることは他の人に言った方が、後々楽になることが多いです。情報も入ってきますしね。お互い悩みを共有できれば、心も留学生活も凄く楽になると思います。

バンコクの泰日工業大学で活躍するスタッフ&先生によるリレーエッセイ

泰日工業大学 (TNI) 奮闘記

② 学生実態調査

池田 隆

TNIでは、全学部の学生が日本語を学んでいるため、様々なタイプの学生に接することができる。

しかし、1クラスは20名から最大35名と大人数であり、担当する学部・学科もランダムであるため、学生の名前を覚えることも容易ではない。

ましてや、個々の学生がどのような家庭環境、生活状況を把握することは不可能に近い。中には、偶然複数回教える学生もいるが、その様な学生は非常に少ない。

そこで、「学生実態調査」と銘打ってアンケートを実施してみることにした。アンケートの結果から読み取れる学生の意識を解説していきたいと思う。

学生は、経営学部会計学科2年生22人である(複数回答可)。日本語の科目は1から5までが必修科目であるが、この学生たちが学んでいるのは、日本語4である。

①「どうしてTNIを選びましたか」(複数回答可)

日本語と経営学の勉強：19人／就職探し易い：2人／家から近い：2人／父の命令：1人

①に関して、ほとんどの学生が日本語学

習と専門科目が同時に学べることを挙げている。これは、大学の長所を学生がよく理解しているということを示している。

さらに、父の命令とあるが、筆者の感覚では、実際はもう少し多いと感じている。命令とまではいかないものの、両親の意向が大学選択の大きな要素であることは、普段の学生との会話からよく聞かれる。

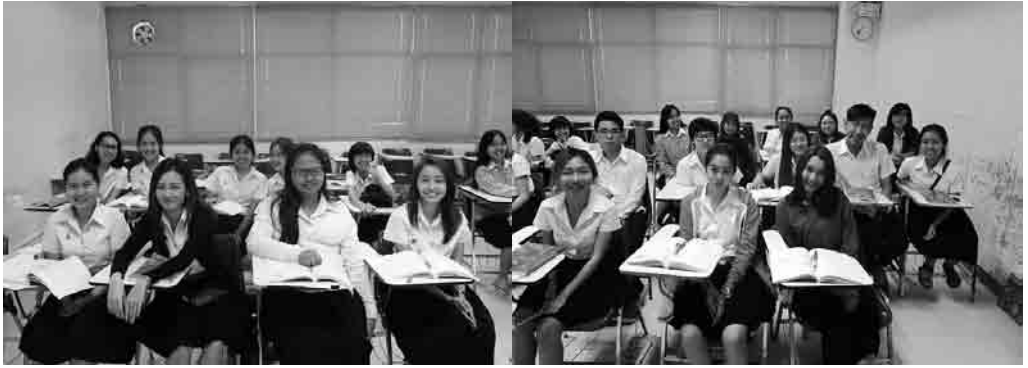
②「大学受験はどこを受験しましたか」(複数回答可)

TNIのみ：12人／タマサート大学と併願：5人／カセサート大学と併願：3人／スィーナカリンウィロート大学と併願：2人／スィラパコーン大学と併願：2人

②に関して、約半数の学生がTNI一本である。日本・日本語が好き、かつ、自分の興味のある勉強もしたいという考えが大学の特色とマッチしている。

なお、併願した大学はどれも有名大学である。タマサート大学は、タイで1、2を争う優秀な大学である。そのようなレベルの学生は、やはり頭の回転が早く、礼儀正しい学生が多い。

③「出身はどこですか」



アンケートに協力してくれた学生たち

バンコク:13人／中部タイ:8人／プーケット(南部タイ):1人

ほとんどの学生がバンコク近辺だが、北部、南部、東北部出身の学生も時々見かける。

④「お父さん・お母さんの仕事は何ですか」

自営業:7人／会社員:5人／請負:5人／公務員:2人／弁護士:1人／農業:1人／無職:1人

④に関して、経営学部 of 学生は、親が経営者や、経理関係の会社員であることが多い。親の影響で経営学部を選ぶようである。請負というのは、主に、トラック等を所有していて、定期・不定期で荷物を運ぶ仕事である。バンで人を送迎という請負もある。無職というのは、家賃収入や株式投資などの収入があるようである。ちなみに、田舎の大学の場合、親の職業は、教師、公務員(市役所等)、農業の比率が高くなる。

⑤「どこに住んでいますか」

自宅:14人 平均通学時間 50分(2時間2人)
／アパート:8人 平均通学時間 11分 家賃
平均 6300 バーツ (1 バーツ=約 3 円)

⑤に関して、女子学生は多少遠くても、自宅から通わせたいというのが、家族の考えのようである。アパートの場合は、安全性と、経済的理由から、友達2人で住むことが割りとよく見られる。ちなみに、タイの平均世帯収入は、27500 バーツであり、首都圏では、44700 バーツとなっている。

⑥「1 か月のお小遣いはいくらですか」

2000 バーツ～4000 バーツ:6人／4000
バーツ～6000 バーツ:8人／6000 バーツ～
8000 バーツ:2人／8000 バーツ～
10000 バーツ:6人

⑥に関して、格差が如実に表れるところだと言える。親が経営者の学生もいれば、大学図書館で週に3、4回、時給50 バーツでアルバイトをしている学生もいる。

このクラスの学生はお金持ちの子も、そうでない子も、みんな、派手な服装もせず、素直でいい学生なのがいずれのところである。

⑦「よく買い物に行くところはどこですか」 (複数回答可)

シーコンスクウェア:10人／ロータス:7

人／パラダイス：5人／メガバンナー：4人

⑦に関して、ロータスというのは、大型のスーパーである。その他はショッピングモールである。特に買うものがなくても、色々な店をながめたり、喫茶店に入ったり、食事をしたりと、ショッピングモールの中でのんびりと時間を過ごすのが楽しいようである。

⑧「恋人はいますか」

はい：6人／いいえ：16人

⑧に関して、筆者の感覚では、バンコクの学生と田舎の学生では差があるように思われる。田舎では、恋人がいる学生はそれほど多くない。田舎の学生は、学生のうちは勉強に専念すべきと考えている比率が高い。そのため、急に成績が落ちたりすると、原因は恋人というのが多い。TNIでは、男女仲良く一緒にいる場面をよくみるので、最初は田舎との違いに少々驚いたのを覚えている。

⑨「何歳で結婚したいですか」

25～30歳：12人（27歳 7人）／30～35歳：3人／したくない：5人／無回答：2人

⑨に関して、結婚したくないという回答がある。これは、異性よりも同性が好きという理由が挙げられる。タイでは、同性愛も当たり前のこととして考えられているため、結婚しないという選択も少なくない。

⑩「卒業したらどうしますか」（複数回答可）

仕事する：7人／留学する：3人／会計の仕事：9人／日系企業：2人／店をつくる：1人／喫茶店をつくる：1人／大学院：1人

⑩に関して、24人の回答を整理すると、会社で働く：18／店をつくる：2／進学する：4 となる。

希望する業種は、銀行や、会計事務所などの専門性が活かせる業種である。会計学科の学生は、就職を遠い未来の話ではなく、現在の延長線上のことと捉え、自分の適性をきちんと把握しているといえる。

以前勤務していた大学では、日本語学科であったため、学生も固定され、授業数も週に4回以上あり、かなり細かく理解していた。授業中の学生への質問は、学生個人と関係がある事柄に関連付けて質問できるため、暗記ではない本当の会話を引き出すことが容易であった。

しかし、この大学では、授業を進めていくことだけでかなりの時間が割かれてしまうため、学生とゆっくり話す時間がなく、学生への理解が表面的なものに留まりがちである。

アンケートは学生を理解するのに、大いに参考になることが実感できた。今後も機会があれば、実施していきたいと思う。

池田隆（いけだたかし）

泰日工業大学（TNI）教養学部日本語講師。2003年青年海外協力隊員として、タイ国ウボンラチャタニ大学に赴任。その後、タイ南部タクシン大学を経て、現職。



奨学金情報

※ 奨学金情報は Japan Study Support のホームページよりご覧いただけます (<http://www.jpss.jp/ja/>)

東亜留学生育友会 奨学生募集

●対象：(1) アジア諸国・地域の出身であり、
大学院の正規課程に在籍している学生 (2) 他
の奨学金を15万円以上受給していないこと

(3) 月例会(月1回、原則第2日曜日に開催。

奨学金を手渡し)に毎月出席可能であること

●給付金額：月額3万円

●支給期間：2017年4月～2018年3月

までの1年間

●採用人数：10名(うち日本人若干名)

●応募方法：申請書類を学内の担当部署で入手

し、直接主催団体へ「郵送」

●応募締切：2017年2月11日(土曜日)

※ 必着

●実施団体・問合せ先：

公益財団法人 東亜留学生育友会

〒215-0018 神奈川県川崎市麻生区王禅寺東

3-35-8

E-mail fujisaki@eacat.or.jp

ホームページ <http://www.eacat.or.jp>

イベント情報

留学生スキー&スノーボード交流会

日本での貴重な思い出となるだけでなく、新しい友達がたくさんできる絶好のチャンス！ 舞台となる『キューピットパレイ』はゲレンデはもちろん、食事も部屋も温泉も最高です。スキーやスノーボードが上手な人も初めての人も思いきって参加してください。

日程：2月28日(火)～3月2日(木) 朝8時、新宿駅西口から貸し切りバスにて出発

開催地：キューピットパレイ スキーリゾート (新潟県上越市)

参加費：32,400円

募集人数：90名

もうしこみほうほう しゅさいしや かくにん
申込方法：主催者ホームページで確認

もうしこみしめきり
申込締切：2017年2月20日（月）

しゅ さい とくていひえいりかつどうほうじん こくさいせいしやうねんこうりゅうかい
主 催：特定非営利活動法人 国際青少年交流協会

とうきやうとみなとくきたあおやま がいえんまえ
 東京都港区北青山 2-7-26 ヒューリック外苑前ビル 2F / ACO 内

でんわ
 電話：03-6890-0595 FAX：03-6735-8990

E-mail：web@kokusaikoryu.com URL www.kokusaikoryu.com

■ 外国人のためのリレー専門家相談会

ねんきん ほけん ぜいきん けつこん りこん しごと かか もんだい べんごし せんもんか むりやう そうだん
 年金・保険・税金・ビザ・結婚・離婚・仕事に関わる問題など、弁護士などの専門家が無料で相談

う ひみつげんしゅ いちじほいく ようよく
 をお受けします。秘密厳守。一時保育あり。（要予約）

に じ
日 時：2017年2月25日（土） 13:00～16:00（受付は15:30まで）

ば しよ すぎなみ とうきやうとすぎなみくうめざと
場 所：セシオン杉並（東京都杉並区梅里 1-22-32）

つう やく えいご ちゅうごくご かんこくご
通 訳：英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、イタリア語、タイ語、ベンガル語、ネパール語

せんもんか べんごし ぎやうせいしよし しゃかいほけんろうむし
専門家：弁護士、行政書士、社会保険労務士など

もうしこ とうじつかいじやう ちやくせつ こ
申込み：当日会場へ直接お越しください。予約も可。

しゅさい といあわ すぎなみくうりゅうきやうかい
主催・問合せ：杉並区交流協会 TEL: 03-5378-8833 FAX: 03-5378-8844

E-mail: info@suginami-kouryu.org

MEMBERS

〈会費とご寄附の報告〉

2016年10月

特別会員

（5口）
 （株）スリーエーネットワーク
 千代田区

賛助会員

（1口）
 雅留宮 久鷹様 澄子 野田市

正会員

（1口）
 HENG FU CHONG ドイツ

小野里 光博

奥山 節子

佐藤 郁夫

平峯 克

佐藤 和江

樋川 好美

清水 恭子

中島 明彦／絢子

鈴木 順子

荒川 雄彦

ご寄附

松浦 秀嗣

三橋 玖美子

山崎 光郎

眞山 静子

深澤 のぞみ

酒井 杏郎

文京区

西村山郡

仙台市

川崎市

日野市

文京区

練馬区

横須賀市

須賀川市

北杜市

国分寺市

習志野市

横浜市

文京区

金沢市

渋谷区

2016年11月

特別会員

（1口）
 （株）シーボン 港区

正会員

（1口）
 宇戸 清治／マリ 八王子市
 高木 桂子 墨田区

ご寄附

張 素華 不明
 西本 梶 横浜市
 吉村 道興 志木市
 小木曾 建 世田谷区
 宮崎 悦子 金沢市

* 皆様の暖かい御支援に感謝申し上げます

ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人です。財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

協会のあらまし

名 称：公益財団法人アジア学生文化協会
ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 小木曾 友

設 立：1957年（昭和32年）9月18日
故穂積五一氏創設

目 的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

◇主な事業◇

- (1) 留学生宿舍の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の会との連携・協力

◇会費（年額）◇

正会員 1口 1万円
賛助会員 1口 5万円
特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間3千円（十税）でお送りいたします。

当財団に対する寄附金は、所得税、一部自治体の個人住民税、相続税、及び法人税の税制上の優遇措置があります。

2015年度より購読料に別途消費税をご負担いただくことになりました。何卒ご了承下さい。

おかげさまで、当財団は2014年4月1日に公益財団法人に移行しました。これまでご支援いただきました皆様には大変ご迷惑をおかけしていましたが、これにより会費並びに寄附金は税制上の優遇措置の対象となります。今後とも、皆様のご支援の下、これまでと同様留学生宿舍の運営、留学生への情報提供、同窓会活動等の活動を通じ、アジアの青年の育成と友好親善のために微力を尽くす所存です。引き続き皆様のご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

後 記

2016年度も昨年に引き続き東芝国際交流財団から助成金を得て、研修旅行が実施できた。大変感謝している。今の時代は、大学に通う学生は勉強に、研究に、アルバイトにと忙しく、同じ寮に暮らしながらも日常のコミュニケーションは限られている。そうした寮生を研修旅行に連れ出し、終日共に行動すると自ずとお互いを知り合うとてもよい場が提供できる。これによりその後のABKでの活動も活発になり、お互い影響を及ぼしあうよい関係に発展することを切に願っている。(F)

小木曾理事長の新春のご挨拶でも触れているように、当財団は、今年9月18日に設立60年を迎える。60年を経て当然のことながら財団を取り囲む環境は大幅に変化し、現在は設立当初にはなかった日本語学校を中心に展開しているが、この間の主な活動を担ってきたアジア文化会館（ABK）は今年57歳を迎え、そろそろ中長期計画で建て替えも視野に検討しなければならぬ時期にある。また、同様古くなり耐震構造の脆弱性から始まった新星学寮の建て替えの検討も寮友による検討会で大詰めを迎えている。(F)

アジアの友 2016年12月号・2017年1月号

2017年1月20日発行（通刊第524号）

年間購読（送料共）3,000円＋税 1部 500円＋税

発行人 小木曾 友
編集 アジアの友編集部
発行者 公益財団法人 アジア学生文化協会
東京都文京区本駒込2-12-13 (☎113-8642)
電話番号：03-3946-4121 ファクシミリ：03-3946-7599
振替口座：00150-0-56754 E-mail: tomo@abk.or.jp
ホームページ：(http://www.abk.or.jp/)
published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASIA BUNKA KAIKAN)
2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN
☎+81-3-3946-4121 ☎+81-3-3946-7599
Email: tomo@abk.or.jp
Home Page: http://www.abk.or.jp/

会員並びにご購読のお申込みはメール・電話または巻末の振替用紙にてお願いいたします。

